

公益財団法人第五福竜丸平和協会

平成 29 年度事業計画

第五福竜丸展示館は、昨年度の開館 40 年から船体建造 70 年の年を迎える。ビキニ水爆実験・第五福竜丸被災事件と核問題・核被害を伝える事業、戦後の一時期、木造船により遠洋漁業に従事した歴史と船を保存・展示する展示館を多くの都民・市民に伝え活用いただく事業をすすめる。

公益目的事業のかなめとしての第五福竜丸展示館業務

- ・開館日は 308 日。
- ・学校見学・市民グループに対するガイド・解説、来館者にたいする見学サポートなどに取り組む。
- ・第五福竜丸・展示館の存在を知らせる広報・宣伝活動をいっそうすすめる。

企画展（展示替え）等の取り組み

- ・建造 70 年を記念し、木造船の建造に関する資料、船大工道具などにより構成する展示を 6 月から 10 月まで開催する。
- ・第五福竜丸の「古稀」を記念して画家・男鹿和雄氏による「第五福竜丸」絵画作品を委嘱している。この作品のお披露目を含め「第五福竜丸」を描き広げる絵画展を本年 10 月下旬より開催する。

船体・エンジン等の保存のための検討作業をすすめる

- ・船体等保存検討委員会の第一回会合が平成 28 年 12 月に開かれ、具体的な作業が開始された。本年は各分野の専門家それぞれの調査作業をすすめ、報告と協議およびその後の作業について策定する。

展示館の経年劣化に対する改修の取り組み、都への要請・協議をすすめる

- ・展示館の改修について平成 30 年度実施の方向で検討がすすめられている。今年度は改修の具体的な箇所、方法などについて都の作業を踏まえながら協会としての意見提出や要請をすすめる。

来館者・来館校を増やすとりくみ

- ・社会教育施設としての展示館の活用をいっそう広げるため、昨年年初に学校教育関連の機関を通じて 6 千校に展示館の案内リーフを送付した。今年もひきつづき学校見学への広報活動をおこなう。第五福竜丸「古稀」のメモリアルイヤーを活用し来館者増をはかる。

出版事業ほか

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック開催にむけて、第五福竜丸展示館の広報宣伝や展示解説などの多言語化（英語、韓国語、中国語）を検討する。昨年度はホームページの英文版を作成したが、今年度は、無料配布パンフレットの制作（日本語版、英語版など）の作業をすすめる。
- ・ビキニ事件太平洋核実験等に関する資料収集や調査・研究を専門委員や各分野の研究者などと協力・協働をすすめる。
- ・60年記念事業として開催した市民講座より記録資料集の編纂をひきつづきすすめる（明治学院大学国際平和研究所と共同）。